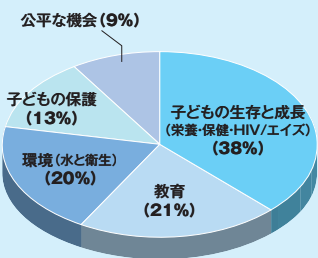


for every child
すべての子どものために

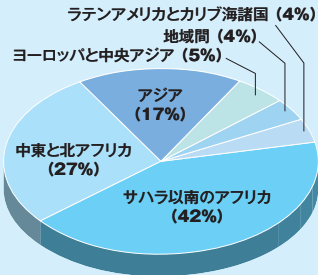
皆さまからのご支援は大きな支えとなっております

ユニセフの総収入の内、23%が世界中の民間の皆さまから寄せられたご寄付でした。
また活動分野、地域ごとの支出(合計56億5千万米ドル)の内訳は下記をご覧ください。

■活動分野ごとの支出割合



■地域ごとの支出割合



※割合は四捨五入しているため、合計が100%になりません。
(2019年度実績)

ユニセフと各国ユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界中のすべての子どもたちが健やかに育ち、持って生まれた可能性を十分に伸ばすことができる世界を目指して活動している国連機関です。国連本体から財政的支援を受けることなく、その活動は皆さまからお預かりしたご寄付と各国政府などからの任意の拠出金により成り立っています。また、世界33の先進国・地域には、民間におけるユニセフ支援の公式の窓口であるユニセフ協会が置かれており、ユニセフとの協力協定に基づき、ユニセフを支える募金活動、ユニセフや世界の子どもたちの広報活動、子どもの権利の実現を目指して行うアドボカシー活動に取り組んでいます。



各国ユニセフ協会における国内活動も皆さまからのご寄付に支えられています。当協会の収支報告については「日本ユニセフ協会の活動」欄をご覧ください。

子どもたちのための力強い
ご支援をお願い申し上げます

ユニセフ募金

●郵便局(ゆうちょ銀行)から

全国の郵便局(ゆうちょ銀行)からお振込みいただけます。窓口でのお振込みの場合、振込手数料が免除されます。

振替口座: 00190-5-31000 口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

●インターネットから

パソコン・スマートフォン(www.unicef.or.jp)からクレジットカード、インターネットバンキング、コンビニ支払い、電子マネー(楽天Edy)でご寄付いただけます。

ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム

毎月ご任意の一定額を金融機関(銀行・信用金庫・ゆうちょ銀行等)の口座、またはクレジットカード決済による自動引き落としでのご支援いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」にぜひご参加ください。世界の子どもたちの状況やユニセフの活動についてご報告する広報誌「ユニセフニュース」(年4回発行)をお送りいたします。お申込みは当協会ホームページまたはフリーダイヤルへ。

※公益財団法人日本ユニセフ協会へのご寄付は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、法人税の控除対象となります。

ユニセフハウスへお越しください

開発途上国の保健センターや教室、緊急支援用テントなど、ユニセフの支援現場を再現したユニセフハウス。世界の子どもたちの暮らしやユニセフの活動を学びに、ぜひお立ち寄りください。JR品川駅または地下鉄都営浅草線高輪台駅から徒歩7分。



開館日・時間

平日、第2・4土曜日(祝日を除く)
10:00~17:00

※開館日・時間は新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合がございます。ご来館の際は事前にご確認をお願いいたします。

公益財団法人 日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
フリーダイヤル: 0120-88-1052 (平日 9:00~18:00)
ホームページ: www.unicef.or.jp



Twitter(ツイッター) / Facebook(フェイスブック) / Instagram(インスタグラム)もご覧ください。

@UNICEFinJapan



@unicefinjapan

ユニセフ活動報告
2020年版

世界の子どもたちへ
あたたかいご支援を
ありがとうございます



日本ユニセフ協会の活動

募金活動

当協会では、インターネットやダイレクトメールによる都度のご支援に加えて、ご自身で決めていただいた一定額を毎月自動引き落としでのご支援いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」を受け付けています。また、お選びいただいた支援物資を子どもたちに届ける「ユニセフ支援ギフト」や、「ユニセフ遺産寄付プログラム」、「外国コイン募金」、ご自身でプロジェクトを立ち上げてご寄付を集めていただく「フレンドネーション」といった、様々な方法でのご支援を呼びかけています。加えて、本年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で厳しい状況に置かれている開発途上国の子どもたちのための「新型コロナウイルス緊急募金」の受付を行いました。また、国内での感染拡大に鑑み、皆さまにボランティアとして募金活動にご参加いただく「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」を初めてオンラインにて開催しました。

皆さまからの多くのあたたかいご支援に
深く御礼申し上げます。

広報活動

ユニセフのこと、世界の子どもたちのことを、皆さまに広く知っていただくために、ユニセフ本部や各国の現地事務所とも連携し、テレビや新聞など各種報道媒体に対する情報提供や、取材協力などを積極的に行いました。ユニセフ本部や現地事務所から日々発信される情報を日本語に翻訳し、報道機関に提供。ホームページやSNSなどでも紹介しています。COVID-19が世界中で猛威を振るった2020年は、世界の子どもたちに及んだCOVID-19の影響について広く発信するとともに、同じように生活が一変してしまった日本の子どもたちやそのご家庭に有効な情報を届けるべく、感染予防やコロナ禍での子どものケアに関するユニセフの指針やガイドラインなどを集中的に発信しました。また、大規模爆発に見舞われた直後のレバノンから、同国事務所の空尾雪絵代表による緊急報告会・記者会見をオンラインで開催するなど、新しい形の広報活動に取り組んでいます。



漫画家かっぴー氏の無償協力で実現した、コロナ禍の子育てのヒントを伝えるWEB漫画「左ききのエレン ユニセフ特別編「チームの世界」」

アドボカシー(政策提言)活動

先進国の子どもの状況をランキングする「レポートカード」シリーズの最新刊、『レポートカード16』(子どもの幸福度がテーマ)の制作に参加。日本の子どもの精神的幸福度の順位が最下位に近かったことが、報道等で大きな反響を呼びました。2017年の世界会議を受け政府が市民社会等と連携して進める、子どもに対する暴力撲滅国内行動計画策定に参加し、ネットとの関わり方を子どもたちが話し合う「スマホサミット」オンライン会議を、インターネット事業者の参加を得て開催しました。子どもの性的搾取の問題に取り組む官民協議会や民間事業者の取り組みへの参加や、5自治体が協力するユニセフ「子どもにやさしいまち」日本型モデルづくりの検証事業も継続。2018年に発表したユニセフ『子どもの権利とスポーツの原則』には、ホッケー、空手、ラグビー、サッカー、経済界でも賛同の輪がさらに広がっています。



「レポートカード16」
子どもたちに影響する世界: 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か

2019年度収支報告

当協会は、皆さまからお預かりしたご寄付のうち、81%にあたる170億円を本部に拠出することができました。この拠出額・拠出率は、各国ユニセフ協会の中で極めて高く、世界の子どもたちのためのユニセフの支援活動に大きく貢献しています。またユニセフは、各国で集められたご寄付の最大25%の範囲内で、世界の子どもたちの状況をより多くの人たちに知っていただき、ユニセフ支援の輪を広げるための活動を各国ユニセフ協会に委ねています。当協会は、引き続き効率的な事業推進を図ることで、皆さまからお預かりしたご寄付の19%で、国内での募金・広報・アドボカシー活動や国際協力に携わる人材育成活動などを実施しました。

© UNICEF/UNI350819/Dejongh

収入内訳(公益目的事業会計)

経常収益計
21,048,764,202円

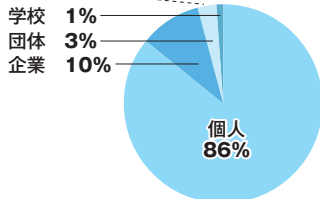
会費 31,935,000円
寄付金 35,520,913円

募金
20,980,841,041円

雑収益ほか 467,248円

ユニセフ募金
20,980,841,041円

支援者別内訳



詳しい財務諸表等は当協会ホームページで公開しております。なお、2020年度の収支報告は、2021年4月に当協会ホームページなどでご報告予定です。



支出内訳(公益目的事業会計)

経常費用計
21,081,655,893円

ユニセフ本部へ拠出
80.6%
(ユニセフ募金の81.0%)

日本国内における
募金・広報・アドボカシー活動
のための事業費
19.4%

うち、事務運営費
および人件費(※)
2.7%

募金活動事業費※1
14.43%
本部業務分担金※2
2.62%
啓発宣伝事業費※3
1.73%
啓発宣伝地域普及事業費※4
0.54%
国際協力研修事業費※5
0.04%

※ 新公益法人会計基準に則り、公益目的事業会計の各事業費に配賦されている、事務運営費(正味財産増減計算書の光熱水費、火災保険料、施設管理料、建物減価償却費、什器備品等減価償却費)及び人件費(給料・報酬、福利厚生費、退職給付費用、賞与引当金繰入額)。詳しくは正味財産増減計算書をご覧ください。

※1 募金関連資料の作成・送付、領収書の作成・郵送料、募金の受領・領収書発行に伴う決済システムの維持管理、活動報告の作成など
※2 ユニセフ本部と各国内委員会が共同で行う各種キャンペーンに対する分担金
※3 「世界子供白書」「ユニセフ年次報告」などの刊行物の作成・配付、ホームページの作成・更新、現地報告会やセミナー、シンポジウム開催、広報・アドボカシー・キャンペーンなどの費用
※4 全国26の協定地域組織による広報・啓発活動関係費
※5 国際協力に携わる人材育成にかかる費用

子どもたちへの成果

皆さまのご支援で、子どもたちのかけがえのない未来と笑顔が守られています



環境(水と衛生) コロナ禍で育つ若者の力 マリ



手を洗うハワさん

モプティ州セヴァレの避難民キャンプ。コミュニティ内の対立や暴力を逃れ、安全を求めてやってきたこの地で、今、新型コロナウイルス感染症が脅威となっています。

感染症の発生と同時に、「マリの酷暑でウイルスは死ぬ」、「特定の国でしか感染しない」等の感染症に対する根拠のない噂が広まりました。そこで、ユニセフとパートナー団体は、信頼できる情報へのアクセスが限られた避難民キャンプで、正しい情報を伝える“伝達者”の研修を開始しました。「正確な知識を持ってもらえるよう皆を説得するために、研修は大いに役立ちました」と伝達者のウマルさんは言います。

「清潔な水と石けんでよく手を洗う、マスクを使う、握手をしないなど、感染予防のために大切なことがたくさんあります」と話すハワさん(15歳)は、ウマルさんから感染症について学び、新たな知識を得たことで自信もつけました。「家族や他の子どもに手洗い方法を教えているのも他ならぬ彼女です」とウマルさんは微笑みます。正しい情報がコロナ禍を乗り越える力となります。



教育 どんな場所でも教育を イラク



仮設教室の前に立つシャヘドちゃん(7歳)

イラクが「イスラム国」(IS)から北部の都市モスルを奪還して3年。紛争と貧困はイラク社会のあらゆる側面に影響を及ぼし、子どもたちの間の不平等を助長しています。最も弱い立場にある子どもたちにとって教育環境の悪化は著しく、2018年の調査によると、貧困層の子どもたちの半分の小学校を修了しておらず、中学校の修了率において、その差はさらに広がります。

未だに紛争の傷跡と瓦礫が残る街の中で、アル・ハフサ小学校は子どもたちの安らぎの場となっています。ユニセフは子どもたちに安全な教育環境を用意するために仮設校舎を建設し、生徒と教員用の学用品を提供しました。「1つの教室で60人もの生徒を教えるのは不可能でした。ユニセフが用意してくれた仮設教室は生徒と教員にとって非常に大きな意味があります」とハナア校長先生は言います。

学校を再開することは、子どもたちが日常と安全を取り戻し、紛争によるトラウマから立ち直るために必要不可欠です。



子どもの生存と成長 新しい命を守る ベトナム



サニーちゃんを抱き笑顔のヌーさん

「へその緒が首に二重に巻きついていたので、サニーの出産は大変でした」と娘が誕生した日をヌーさんは思い出します。胎内でのサニーちゃんの状態が良くなかったことや、上の2人の娘の出産時の経験から、ヌーさんは定期的な出

産前検診が必要だと認識しました。過去の出産では両親や友人からのサポートに頼っていたヌーさんは、食事のあげ方についてしかアドバイスをもらえませんでした。「出産前検診では様々な知識を得て、今はユニセフの支援を受けた子育て教室で学べることを楽しみにしています。サニーには優しく健康に育ち、『小さな太陽の光』という意味の名前のように輝いてほしいです」ユニセフは現地政府と協力のもと、妊娠中や出産時の合併症の予防と治療、早産・低体重児のための母乳育児の早期開始やカンガルーケア*などの新生児の早期ケアの普及を支援しています。安全な出産、適切な保健ケア、栄養と衛生に関するアドバイス、質の高い教育、守られた環境が揃うことで、健やかな成長が叶います。

*早期の母子接触のことで、肌と肌のふれあいによって早産児の生存を助ける方法

新型コロナウイルス感染症拡大における ユニセフの支援例

ベナン
170万人の
子どもたちのために
ラジオ・テレビ・オンライン等での
遠隔授業の実施を支援

マラウイ
手洗い実演やラジオ・広告宣伝車・
新聞等を通じて
420万人に
水と衛生に関わる啓発活動を実施

ギニア
学生127万948人に
石けんや消毒液等を含む衛生キットを配布

ペルー
SNSを通じて感染症に関する情報を
約1,695万人に提供※

パキスタン
170万人以上に
基礎的な保健ケアの提供を継続※

(2020年9月時点。但し、※は2020年8月時点)

子どもたちのためのユニセフの活動は
世界190の国と地域で展開されています。

- ユニセフが支援を行う国や地域
- 33のユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)



子どもの保護 貧困に立ち向かう ルワンダ



イボンヌさんと「ルワンダ語の授業が好き」と話すエリックくん(10歳)

ルワンダには子どもの保護に携わるIZU*と呼ばれるボランティアがいます。ユニセフは、IZUが子どもの保護に対する啓発活動の実施や、家族向けのカウンセリング、必要に応じて子どもたちに心理社会的ケアを提供できるよう、研修を実施しています。IZUの1人、イボンヌさんが出会ったのは、建設途中に放置された家で暮らしている家族です。貧困のために、息子のエリックくんは学校を退学し、食料をくすねたり、盗んだ電子機器を売り払ったりすることで家庭を支えていました。イボンヌさんが地元当局やコミュニティに家族の支援を呼びかけたことで、エリックくん兄妹が学校へ通えるように、また家庭環境の改善もできるように支援が始まりました。イボンヌさんの働きのおかげでエリックくんが学校を再開できた今も、彼女は家族の様子やエリックくんの通学状況を確認するため、家庭訪問を継続しています。コミュニティを巻き込む形での支援によって、苦境にある子どもたちのネグレクト・虐待・暴力などを防ぐことが可能となります。

*ルワンダ語で“家族の友達”を意味する言葉の略語



公平な機会 子どもらしく過ごすために ウルグアイ



ユニセフから提供されたおもちゃで遊ぶゲイシーさん一家

2年前、経済危機が長引くベネズエラから、ウルグアイの首都モンテビデオに移住してきたゲイシーさん。仕事をみつけ、今年やっと夫と2人の娘を呼び寄せることができました。しかし3人を迎えて数日後、予想もしない出来事が起こりました。新型コロナウイルス感染症の発生です。「夫は仕事に就けず、娘たちの学校は閉鎖され通えなくなっていました」とゲイシーさんは言います。ユニセフとパートナー団体は、コロナ禍でさらに弱い立場に置かれる移民の家族を支援するため、食事や住まいの提供、子どもと若者を対象とした心理社会面での支援、ストレスを軽減するための学びと遊び用の教材やおもちゃの提供などを開始しました。ゲイシーさん一家もその恩恵を受け、家では子どもの勉強を見たり、一緒に料理をしたり、この状況を最大限に生かし、子どもたちが子どもらしい生活を送れるよう努力しています。ゲイシーさんは新たな地で子どもたちとともに未来を見つめています。